

## 沖縄語の汎用漢字の生成推理 (2枚)

2007年7月15日

沖縄語研究家 船津好明

ここでいう沖縄語の汎用漢字とは、共通語と音韻関係がなく、沖縄語の漢字としてよく使われているものを指します。沖縄語の「<sup>くみ</sup>米」と共通語の「米」は音韻関係があるので、汎用漢字ですがこの種の漢字は本稿の主題ではありません。沖縄語の汎用漢字は沖縄語の元来の漢字と考えます。共通語(日本語)から来たものかどうかは別の議論とします。

### 1、事例「<sup>ぐしく</sup>城」

「<sup>ぐしく</sup>城」は沖縄語の汎用漢字となっています。そうなった過程を推理してみます。

#### (1)「<sup>ぐしく</sup>城」となった一つの推理

「<sup>ぐしく</sup>」という言葉(音)は文字が用いられる前からあり、これに漢字を当てたのは文字が用いられてから後のある時期と思われます。沖縄の識者が日本語を知っていて、「<sup>ぐしく</sup>」の意味が日本語の城(しろ)に当たるとして、「<sup>ぐしく</sup>」の漢字として「城」を当て「<sup>ぐしく</sup>城」とした、という推理です。

#### (2)「<sup>ぐしく</sup>城」となったもう一つの推理

「<sup>ぐしく</sup>」という言葉(音)は文字が用いられる前からあり、これに漢字を当てたのは文字が用いられてから後のある時期と思われます。日本語の「城」との関係ではなく、中国から沖縄に入っていた漢字の「城」を当て「<sup>ぐしく</sup>城」とした、という推理です。

#### (3)「<sup>ぐしく</sup>城」の汎用過程の推理

いつの世の識者も、「城」(<sup>ぐしく</sup>)を肯定的に継承、使用し、他の漢字を当てなかったからだと思います。公文書に、地名に、人名に使うなどにより、定着したものと思います。

#### (4)「<sup>ぐしく</sup>塞」はなぜ使われなかったか

誰もこう書かなかったためだと思います。初めから「<sup>ぐしく</sup>塞」と書き、他の漢字を使わなければ「<sup>ぐしく</sup>塞」が汎用漢字になっていたかも知れません。「<sup>ぐしく</sup>館」なども同様です。

## 2、一般の場合

沖縄語には大衆レベルの文字文化はありませんでした。識者の間での自然統一的な使用が、汎用化の原理であったと思います。

現在の我々は、沖縄語を大衆的に普及させようとしています。沖縄語の文中で用いた漢字が汎用漢字になるためには、第一に沖縄語が普及すること、第二に普及の経過の中で多くの人々が他の漢字を使わず、その漢字を使うことです。

### (1) 「<sup>とうじ</sup>妻」は汎用漢字になるか

「<sup>とうじ</sup>妻」はかなり広く使われ、他の漢字が見られないことから、汎用漢字になると思っています。「<sup>をうとう</sup>夫<sup>ついで</sup>」との対の文字としての解り易さもあると思います。

なお、「妻」と似た意味の日本語の古語に「<sup>とし</sup>刀自」があります。

### (2) 「<sup>かー</sup>井」は汎用漢字になるか

「<sup>かー</sup>井」という書き方はときどき見られます。これが汎用漢字になるかどうかは、沖縄語の普及に伴って多くの人が、他の字（<sup>かー</sup>川、<sup>かー</sup>泉、<sup>かー</sup>井戸など）を使わずに「<sup>かー</sup>井」と書くかどうかにかかっています。

### (3) 沖縄語の世界での解釈

沖縄語の汎用漢字は、共通語との係わりの解釈において、より沖縄語的になります。「城」は沖縄語として元々「ぐしく」と読むが、共通語では「しろ、じょう、き」などと読む、という解釈になります。沖縄語は共通語と対等な別個の言語系ですから、沖縄語の世界で考えるものです。「城」の字は中国から伝来したもので、沖縄へ直接か、日本を経由したものが、どちらでもよいのです。

**汎用漢字は自然にできるものですから、適切な漢字があるのに別に新規に作るのは、好ましくありません。**例えば「<sup>ちゅ</sup>ちゅらさん」は「<sup>ちゅ</sup>清らさん」と書く

のが適切であることは学者、識者の一致した見解です。こう言われる中で「<sup>ちゅ</sup>美らさん」も使われています。「「<sup>ちゅ</sup>美らさん」という書き方は、沖縄語の学習には不適切です。」